乳がん早期検診を

ピンクリボン 歩いて重要性訴え

中央区

乳がんの早期発見や診断、治療を呼び掛ける「ピンクリボン運動」の一環の催し「ピンクリボンミニウオーク」が10日、さいたま市中央区のさいたま新都心けやきひろばなどで行われ、約千人が1・8キロの道のりを歩き、検診や受診の重要性を訴えた。

乳がんの早期発見のための検診受診を呼び掛ける「ピンクリボンミニウォーク」の参加者＝さいたま市中央区

県、さいたま市、戸田中央医科グループなどによるピンクリボン運動推進埼玉県委員会が主催。10月の「世界の乳がん月間」に合わせた啓発活動として、昨年からさいたま新都心で行われている。

スタートを前に、戸田中央総合病院の原田容治院長は「戸田市で始まった運動は10年で検診率が当初の10倍となる約60％となった。継続は力なり。さらに検診率が上がることを期待し、病気のことをよく知ってほしい」と語った。

参加者はけやきひろばをスタートし、駅やコクーンシティを経由して、中央区新都心のさいたま赤十字病院前特設会場へ向かい、擬似乳房体験、乳がん自己検診、パネル展示などで知識を深めた。

戸田市から参加した会社員浜田美咲さん（35）は「催しは楽しく、乳がん早期発見のため、検診受診を心掛けようと思った」と感想を語った。同市の会社員橋本茉里子さん（33）は「家族のため、子どものためにも受診したいと思った」と話していた。